



第一図 石州瓦図譜

(七) 経営、職工、行事

カーラヤ  
カンバ  
ヤキワタシ・ヤキウケ  
カチヨウ  
シラヂウケ  
オヤカタ  
カンキチ  
ナカデマ  
コヤドー・シヨク  
トーシヨク  
カマタキ  
キリチン  
シヨクニン  
モンイタシ  
仕事初め

瓦製造業  
瓦工場  
一枚いくらで焼いて経営者に渡す請負の一方法  
工場を借りて経営する事  
シラヂ一枚いくらでシラヂの製造を請負う。  
経営者  
瓦職工見習者  
カンキチの上役  
職工の最上役  
職工長

仲間入り  
四月入り・小屋入り  
ボンカンジヨー  
セツキカンジヨウ  
カタメノサカズキ  
瓦工場では職工と工場主との労働契約は三月より盆迄。盆  
合、工場主はカタメノサカズキと称して酒食を出す。そ  
して前金をも渡すのである。前金は労働者側から全額を  
申し入れる。その返済は給料から月々差引かれる。借金  
の一種ではあるが利子はつかない。現在では形式的なも  
のとなってきた。

職工が親方を招いて酒食を共にする  
親方が職工を招いて酒食を出す旧の四月一日ごろ。  
盆勘定。春から盆迄の労賃の支払い

職工が親方を招いて酒食を共にする  
親方が職工を招いて酒食を出す旧の四月一日ごろ。

（八）瓦の種類

ヒラ  
唐草（カラクサ）  
ソデ（袖）大ソデ・小ソデ  
ガンブリ  
スミ  
雪止

ノシ  
セイガイ  
ヒモマル  
タケマル  
紋板（モンイタ）  
須山（スヤマ）  
止

太鼓（タイコ）  
切巴（キリドモエ）  
クツ巴  
（カラクサ、ソデ、ガンブリ、  
スミ、ヒモマル、タケマル、雪  
止）

鳥休（トリヤスミ）  
ドーブモノ（道具物）  
（カラクサ、ソデ、ガンブリ、  
スミ、ヒモマル、タケマル、雪  
止）

ウワモノ（上物）  
（タイコ、トモエ、紋板、須山  
鳥休）

窯焚き  
一枚幾らで請負て瓦を切る人  
コヤドー・シヨク、カマタキ、ナカデマを総称して云う  
紋板、須山など装飾瓦を専門に作る人  
春になつて初の仕事日

カタオロシ  
ヤマジマイ  
カマの御祭  
セツキ前に行う。少し酒食を経営者が出す。  
冬の採工終了の祝。経営者がふるまう。  
カマの調子の悪い時に神宮を招いて祭をする。

カタオロシ  
ヤマジマイ  
カマの御祭  
セツキ前に行う。少し酒食を経営者が出す。  
冬の採工終了の祝。経営者がふるまう。  
カマの調子の悪い時に神宮を招いて祭をする。

瓦の種類は細かに分けるとまだ多数あるが基本となる種類はこの程度である。

（補充）セツキウリ？仲買。仲買人。

都野津で普通に作つてゐる瓦の図譜を作製してみました。皆様方の何かのご参考になれば幸いに思います。

（本文を一部改編して掲載した。図面省略）

ツユズリ	最前面の瓦が倒れ落ちる事。火前の四段ごろの瓦に多い水分の多い場合にモミツチが柔らかくなつて重みに耐えず瓦がずり落ちる事
ヒカリガクル	下の番の力マを焚く時に上の番の力マの中の瓦が光つてくる事。
ナガダキ(小口の)	その小口を焼き出してから三~四時間ごろ
カマガワク	焚いている力マの中の瓦が崩れ落ちる事。一部分が強熱されすぎた場合に起くる。
クミキル	?
ハダガオクレル	下の力マの焚き具合によって一部が低温で力マの肌に暗色部の存する事
ハダガサメル	風が吹いて冷却される部分が暗色になる事
モミツケバナヲキル	下番の力マを焚いている時に上の力マの火前の瓦の地積みの部と二段のモミツチとの間隔が開く事
クチドロヲヌル	焚き口を塞ぐ事
トメ	焚き終わった力マが冷めるために力マの内部で音がする事。ピンピン。ドスン
カマナリ	瓦を厚くした様な物。地積みの瓦の二ワリを防ぐため
ヒダテ	に火前の地積みの前におく。
トガワラ	力マの焚口に用いる素焼のフタ
カマヒバシ	トガワラを外したり上げたりするに用いる(鉄柄)
コワリ	焚木を小さく割る事
ヤガクル	熱気が焚口より吹き出る事
ダイソク	大東?燃料用松材
タキツブス	甚だ焚きすぎた事

(六) 窯出し、選別	
クチヲキル	焚き終わってから瓦を取り出すためにクチを開ける事
カマハズシ	タガネによつて力マの中の瓦を離す事
タガネ	鉄製品
クチヲハル	?
クチヨリ	クチ迄出した瓦をクチで大略選別する事
カマダシ	選別場への負い出す事
カワラニワ	瓦の選別場
カザクイ	瓦にヒビの入つている事。急冷の故にとも。土質の故にとも云う
カマソージ	カマソージによつて出たものの中からハセのみ拾う
ハセヒロイ	瓦を何級かの段階に選り分ける
センベツ	歪んだ瓦
ニワリ	クチがかけている事。力マ外しの時に矢敗する
クチコゲ	瓦の形直で色良く音の良いもの
一等品	瓦の形直で色少し落ち音の良いもの
二等品	形直で色少し落ち音少し落ちたもの
三等品	形歪み色悪く音稍良
四等品	クチコゲで音冴えず
等外・ヤマユキ	瓦が互に密着して離すことのできないもの。廢品
ヒイツキモノ	歪みの甚しい瓦
チヤンバチ	表面の粗糙なもの。
ジガアレル	ケショー・スマツケ ハセ、モミツケが外れる時にできた傷跡へ削炭(鉄砂)
ケツソク(結束)	瓦ヘ)ベンガラ(赤瓦ヘ)をつけて見よくする
	平瓦五枚一組としてワラ繩で結ぶ事(補充)地積み

ツミドリ

ホシ

メズナ

ツバミバセ

ウワダン

ウロコ

(四) 窯

カマ

ミギガマ  
ヒダリガマ

キアゲ  
ダイソク

オーレ  
カマズミ

ハセ(図9)

モミツチ(図9)

窯場の図(図10)

内部略図(図11)

ドウロ ゾウリ

モーロ ドーロ

オイバセ

モミツチズナ

クリガケしたシラヂをそのまま、積み重ねる事。場所の狭い場合にする。

アラヂやキリタテが寒さにより中の水分が凍つて表面にできた星形の氷

右記の称であつてウロコ形になつたもの

窯。現在は登り窯を普通とする。

カマズミする場合に小口が右側にあるカマ

燃料となる松割木をカマに負い上げる

燃料となる松割木

瓦素地をカマ運び入れる事

瓦素地をカマの中に積み上げる事

瓦と瓦とが粘着しない様に間に挟ませる。一度素焼きしたもの。

瓦の下において瓦の密着を防ぐ。粘土のまま用う  
ハセ・モミツチ共に瓦の粘土より砂の多い脆い粘土を用いて作り、瓦が焼けてから瓦と離れ易くする

モミツチ砂として用いる。極細粒砂。有福村産  
最前面に積んだ瓦が前に倒れるのを防ぐために柔い土を挿む。その土

四段目五段目ごろを云い道具物(カラクサ、トモエ、オニワなど)をつむ。

積んだ瓦が奥へ傾いている場合

ノヘナ

キユーナ

ゲタをハカセル

クチヲカケル  
ワタン・ホーダツ・ダイアゼ クチアゼ(図12)

(五) 窯焚き

ツユダキ

ヌクメ

ホンダキ

ナカダキ

コクベ

オーレ

アク

コグチヲタク

ハシレル

サエル

アガル

ハナトビ

モミツチ砂として用いる。極細粒砂。有福村産  
最前面に積んだ瓦が前に倒れるのを防ぐために柔い土を挿む。その土

大口で徐々に火を焚く事。四、五時間～十時間

大口を強く焚く事。十六時間～廿十時間

ホンダキにかかる事。四～五時間程度のころ

少しづつ焚く事

ホンダキの終わりごろ殊に強く焚く事

オキ(燠)の事

大口が焚き終つてから各窯の小口を下段より順次に焚く

オキ(燠)の事

温度急上昇の場合瓦が破損する事

温度急上昇してカマの中が黄白色になる事

焚くのが強すぎた場合とか積み方が垂直にすぎる場合、

キリタテ	切り終わったもの
キリタテ・キリ場	切る場所
ウチギリ	型より内側に傾いて切る事
ソトギリ	カワラガマの柄の先端につける瓦の穴あけ道具
アナアケ	ステ・サン・クチ・サンノアタマ・サンカギ（シキカギ）。
瓦部分名称	アナ・クチカギ（図4）
マキオロシ	カマに水をつけて切った跡をなでて切り跡の小穴をつぶす事。（クチの場合）
リヨウナデ？	切ったアラヂをカマでなでる事。肌目が細くなつて外観
カタナデ？	がよくなり、釉薬がのり易くなる。
ナデヲカウ	角を指でなでて滑らかにする。
ユビナデ	
(三) 乾燥・釉薬ガケ	
スクマセル	干し場
ホシニワ	乾燥より生じた裏の亀裂を粘土でふさぐ事
ウラヅクロイ	ステが歪む事
ステガイヌル	干し瓦をひっくり返す事
カヤス（モドス）	キリタテが半乾きのもの
ハンシラヂ	日干したものを乾燥棚にかける事
タナガケ	
ダキアワセ（図5）	
ミヨウハチ（図6）	
ウスガケ（図7）	
アツガケ	ウスガケの瓦の如き並べ方だが、各瓦を一枚づつにする。

以上のダキアワセ・ミヨウハチ・アツガケ・ウスガケは干す瓦の乾燥棚への並べ方
シングアオイ
シブがウク
トマ
キレ
タナオロシ
アクタ
シラヂ
オシメゲ
クリ
クシリガケ
ワク（図8）
シラヂを積むための敷物。ワラ屑
乾燥した瓦素地
積んだ圧力でシラヂのこわれる事
釉薬
釉薬をシラヂにかける事
クシリガケを終わつたものを置いて釉薬を小時滴らす道具
クシリガケするシャク
大桶
攪拌器具
釉薬が沈澱する事
釉薬が乾いてからの小さい亀裂形。釉薬の濃い場合に多い
クシリガケしたシラヂを振つて、しづくをたらしておくる事
フリドリ
ムコウドリ
デバシリ
デヲキル

イレフネ  
ジヨレン

土を槽に入れる事。  
土をフネに入れてそれを山鍬で小さく削り混ぜる事。現今、都野津では土練機を用いるから廃れた。

ボーズ

ボーズを力ヤス  
ボーズを針金で三分位の厚さに切つて他へ移し、ふみつけて練る

タタラ  
ボーズを針金で切つて巾尺二寸、高さ三尺位、長さ十二尺位の粘土の垣の如きものに築く。この土壙の如きものをタタラと云う。これを適当に切つてアラヂにとるのであるが現在都野津に於てはアラヂ機を用うるので、これを作るのはアゼを作る時だけである。(図1)

タタラが槽の方へ傾いている。

オカノ方へ傾いてイル。前記の反対側に傾いている場合を云う。

メツケ  
トコバリ  
スミ  
ヒラ

タタラの中(図1)  
タタラの高さを区切る印(図1)

タタラを一定の寸法にしてその寸法より余つた土で、両横の部分。(図1)

タタラの垂直を見る器  
セギ  
デヨウギ・タテヂヨウギ  
テナワ

土を切る針金  
タタラの土の隙間  
ス

ジヨレン以下ここ迄は、現在都野津に於ては、特殊の場合以外行はれない。  
土を土練するために入れておく槽。地面を尺五寸位の深

フネ

ドレンキ  
アラネリ  
シアゲ・二番練り  
アラヂキ  
アラヂトリ  
アラヂ機。アラヂ大略瓦形となつた粘土

アラヂ型  
アラヂヲワル

アラヂを作ること

シラヂの破片を粉にしてフルイでふるつたもの。アラヂ相互の粘着を防ぐためにアラヂの間にふる。

テナワ  
アラヂ型(図2)  
アラヂ機よりアラヂが二枚づつ出る。その一緒になつているのを離す事。

アラヂをカヤ(エ)ス  
アラヂをヨセル  
マクリ  
タタキ  
ヒトミ  
ヒトミイタ  
マクリ  
タタキ  
ヒトミ  
ヒトミを被う板

アラヂがよせてあるものの廻りをまくもの。ワラ製品  
アラヂを叩く木製品。桜の木が良い。これで叩いて土を固める。

アラヂを瓦型に切つて全て瓦の型にする道具  
アラヂがキリガタに不足する場合を云う

さに掘つた四角なもの。底や囲いに板が張つてある。の中に土を入れ適当に加水して使用に良い柔さにする。

土練機。土を練る機械

第一回目の土練  
第二回目の土練

第一回目の土練

第二回目の土練

アラヂ機。アラヂ大略瓦形となつた粘土

アラヂを作ること

シラヂの破片を粉にしてフルイでふるつたもの。アラヂ相互の粘着を防ぐためにアラヂの間にふる。

土を切る針金

アラヂ型(図2)

アラヂ機よりアラヂが二枚づつ出る。その一緒になつているのを離す事。

アラヂをカヤ(エ)ス  
アラヂをひつくり返す事  
一まとめにする事

瓦製造場(カマ場を除く)  
シヨリバの窓。上・下

ヒトミ  
ヒトミイタ  
マクリ  
タタキ  
ヒトミ  
ヒトミを被う板

アラヂがよせてあるものの廻りをまくもの。ワラ製品  
アラヂを叩く木製品。桜の木が良い。これで叩いて土を

固める。

アラヂを瓦型に切つて全て瓦の型にする道具  
アラヂがキリガタに不足する場合を云う

カワラガマ(カマ)  
キリガタ(図3)  
キリクズ

アラヂ落した粘土

アラヂがキリガタに不足する場合を云う

# 都野津町瓦工場語録

初めに

都野津の瓦工場で用いている言葉を集めてみました。これによつて学者に調べて頂くと都野津或いは石見の製瓦技術が日本のどの辺の系統であるか解かるかもしません。

或いは不明に終わつて骨折り損になるかもしませんが、都野津瓦の歴史を調べるためにあらゆる術をつくしてみなければなりません。この意味で皆様方の御協力を御願い致します。

この冊子の中に誤りやぬけていることがありましたら、ぜひとも御教へ下さい。

昭和27年7月 森本 幸治

## (一) 採土、運搬

ツチヤマ

ドロヤマ  
ウワヤマ  
マサ(マサツチ)

泥山。右に同じ。  
上山。瓦用粘土上層の不用な砂土。

用う。

マサズナ  
ヒメマサ  
アラマサ  
ネバ  
トラ  
ダコ  
ハサリ

粘度小でポツリポツリした土  
マサ砂。マサ土の砂が、かつたもの。  
姫マサ。マサ砂で砂粒小なるもの。  
荒マサ。マサ砂で砂粒大なるもの。  
粘度大なる土

?

粘土層間に狭在する不用物。砂層。褐鉄鉱層。

シキ

シヨウヂ

シニヤマ

イキヤマ  
ズリ

土のハダ

ヤ

オトコシ。

オトコビヤク

コマ

コマ

木。又は鉄の光つた棒。直径三分五分。長さ尺五寸位。

これを土に打ち込み、土のハダを大にして土を崩す。

崩れ落ちた土

土の小隙間

生山。土山の未採土の部分。

崩れ落ちた土

土のハダ

ヤ

オトコシ。

オトコビヤク

コマ

男日役。右の名称は採土以外の労働にも普通に用いる。  
日やといである。  
オイコに土を一荷(容積。チリトリ二杯。重量未乾燥の瓦(アラヂ)六八枚分一枚、一メー)入れて土置場へ負うて運搬しコマと称するもの(小さい厚紙に工場印を押したもの)一枚貰ふ。この枚数により賃を勘定する。この方法による運搬法をコマと云つている。  
日給で運ぶ人夫。運搬に限らず極めて普通に用いる。  
六尺立方の土を一坪として採土運搬を請負うる。

ドロガネル

(二) 瓦の成形

採った粘土が雨露によつて碎かれ、又不用分が流されて使用に良い状態になる事

普通に採土され得る粘土層の最下底。不用な粘土、又は砂がることが多い。

小路? 前年採土した隣を採掘する場合には前年採土して跡を埋めた境界より、或隔りをおいて採土する。その隔りの土。大体一尺。

死山。採土後穴埋めした部分。転じて一度採土しておいた土全部をも云う。

シキ  
シヨウヂ  
シニヤマ  
イキヤマ  
ズリ  
土のハダ  
ヤ  
オトコシ。  
オトコビヤク  
コマ  
木。又は鉄の光つた棒。直径三分五分。長さ尺五寸位。  
これを土に打ち込み、土のハダを大にして土を崩す。

崩れ落ちた土

土の小隙間

生山。土山の未採土の部分。

崩れ落ちた土

土のハダ

ヤ

オトコシ。

オトコビヤク

コマ

木。又は鉄の光つた棒。直径三分五分。長さ尺五寸位。

これを土に打ち込み、土のハダを大にして土を崩す。

崩れ落ちた土

土のハダ

ヤ

オトコシ。

オトコビヤク

コマ

木。又は鉄の光つた棒。直径三分五分。長さ尺五寸位。

これを土に打ち込み、土のハダを大にして土を崩す。

崩れ落ちた土

土のハダ

ヤ

?

?